TEIKOKU DATABANK HISTORICAL MUSEUM

MUSE

2025.3
Vol.46

帝国データバンク史料館だより［ミューズ］

創業125周年企画

■巻頭特集
周年を祝う

■輝業家交差点　近代にっぽんを彩る人物往来
外山 脩造
信用調査事業をもたらした公益第一のビジネスリーダー

■資料にみる企業の歴史
「興信所」の変遷
企業信用調査と人事調査

1975年まで使用していた社章

巻頭特集

周年を祝う

帝国データバンク（以下、TDB）は今年3月3日に創業125周年を迎えました。
1900（明治33）年の創業以来、信用調査業を主業とし、日本経済の発展に貢献してまいりました。
本号では、125周年を記念して、これまでの歩みを振り返り、信用調査業の原点に立ち返ります。
多くの企業が、節目となる周年には何らかの記念事業を実施しています。
TDB情報統括部が2024年12月にリリースした
「全国「周年記念企業」調査（2025年）」では、
2025年に周年を迎える企業は全国に155,167社。
この調査では周年を10年刻みで集計しているため、
125周年はカウントされていませんが、四半世紀にあたる
25周年や125周年も重要な節目として祝われてきました。
本特集では、TDBがこれまで周年をどのように
祝ってきたか、主だった事業を振り返ります。

30周年記念品の扇子（清浦奎吾の揮毫）

■10周年記念大園遊会

1909（明治42）年4月14日、10周年記念の大園遊会が日比谷平左衛門の品川御殿山の別荘を借り切って開催されました。創業時の苦労を乗り越え、ようやく事業が軌道に乗り始めた時期の開催であったため、記念式典は盛大に行われました。

100余名の社員と5,000余名の会員に対して招待状が送付され、当日は、創業者後藤武夫（以下、初代）と主催の社員たちが忠臣蔵の四十七士に扮して、楽隊を先頭に会場へ向かいました。会場は、庭園全体を使用し、5ヶ所ほどの余興場と式場が用意されました。式場で、初代の挨拶後、渋沢栄一、清浦奎吾などからの祝辞が読まれ、浪花節や新内節、手品、喜劇などの余興が行われました。同じ年に創業した紅葉屋商店の店主は、会場内にコーヒー店を設置し、参加者へコーヒーを振る舞ったといいます。会場を提供した日比谷平左衛門は、日清紡績、鐘淵紡績の設立に関わった「日本紡績界の巨人」と呼ばれた人物で、園遊会終了後には、初代始め社員たちを晩餐に招き、その労をねぎらいました。

10周年記念絵はがき
上：本社社屋前と初代
下：園遊会会場

■20周年記念事業

1920（大正9）年3月3日、本社において20周年の記念祝賀会が開催されました。主な内容は、①記念品の贈呈、②記念慰労金の配与、③公共事業に対する寄付、④奨学資金提供、⑤本社の業務拡張でした。華やかな10周年の大園遊会に対し、20周年では公共事業への寄付や社員への慰労、業務の拡張など堅実な内容が目立ちます。

■25周年記念『財界二十五年史』刊行

続いて25周年。ちょうど100年前の1925（大正14）年は、記念式の開催と業務改善を実施し、翌年の1926年7月に『財界二十五年史』を刊行します。この書籍は、周年記念事業として日報部の社員が経済紙『帝国興信日報』に16ヶ月連載した記事を書籍化したもので、創業以来25年間の金融、貿易など主要25業種の業界別動向をまとめた大作です。緒言で本書を刊行した理由を「ただ徒（いたず）らに過去を追想するのみでなく、既往の教訓によりて将来を策せんとするに外ならぬ」としています。

会員からの要望による本書の書籍化は、調査員の目でもって当時の経済界を描き出し、未来への教訓とする、大変意義のある記念事業でした。

帝国興信所日報部『財界二十五年史』
（帝国興信所、1926年）

■30周年記念祝賀会

1930（昭和5）年の30周年記念は、初代の還暦祝賀式も兼ねて盛大に行われました。初代は3年後に亡くなっているため、この祝賀会は初代の集大成ともいえる式典でした。

3月3日に社内で記念式及び還暦祝賀式を催した後、5月28日に両国の国技館を借り切って、記念大祝賀会を開催しています。還暦祝賀式では、東京本所の社員から贈られた肖像画の除幕式が行われました。この肖像画は、現在、当館ビル1階入口正面奥に展示しています（企画展開催中のみ）。また、開催前に記念の揮毫を方々へ依頼し、犬養毅や武藤山治、野間清治、阪谷芳郎など各界から集まった74名分の書画が、祝賀会当日に国技館に展示されました。書画の一部は、現在、展示室中央の人物往来コーナーにて展示しています。

1万5千人が参加したこの祝賀会の最大の目玉は、余興の大相撲でした。大日本相撲協会の力士全員が出場し、横綱五人掛（がかり）や幕内正五番、幕下五人抜などの特別取り組みが次々と行われ、会場は大いに盛り上がりました。

会場となった両国国技館外観

余興の大相撲

■40～80周年

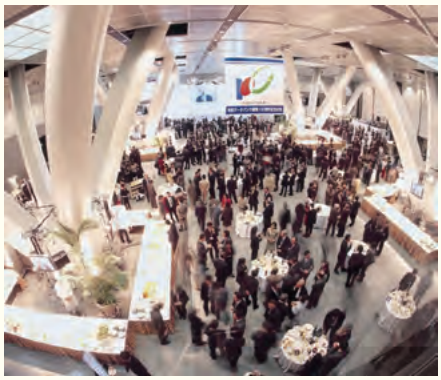
40周年（1940年）は、戦時下のため社内のみの開催でした。泉岳寺において物故所員の慰霊祭を行い、東京会館で晩餐会が催されました。記念品の文箱は、展示室プロローグゾーンの机上に展示しています。50周年も戦後間もなかったため、目立った行事は開催されていません。70周年には新富町にあった本社を現在の南青山に移転、80周年には80年史『帝国興信所の八十年』（1981年4月）を刊行しています。

40周年記念品の文箱

■100周年記念式典

大きな節目となる2000年の100周年では、新本社ビルが落成し、その見学会と併せて記念式典を開催しました。周年の8年前から年史編纂が始まり、100年史『情報の世紀』を刊行しました。この社史を基に、2007年に当館が開館しています。他に100周年記念事業として、企業理念の制定、ユニセフへの寄付、社友会（OB会）の発足などが行われました。

2020年の120周年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、式典の開催はありませんでした。当館シアタールームでは周年記念に作成した120年の歩みを振り返る映像「帝国データバンクの120年 ひとがたり ものがたり」を視聴できます。



100周年記念式典会場（東京国際フォーラム）

会社のお誕生日

会社の歴史を振り返るとき、周年事業の記録はその時点に至る会社の歩みや当時の姿など多くの情報を伝えてくれます。式典の開催と書籍刊行、事業の改善や本社ビルの移築・建て替え、社史編纂。TDBにおいて周年は、事業継続の感謝を内外へ示すと共に、その歩みを振り返り、記録し、事業を前進させていくための大きな節目でした。

当館では、2020年に周年を迎えた8,024社にアンケートを実施し、周年記念事業に対する意識調査を行った結果、その目的・意義について多かった回答は、社内に対しては「先人への感謝を想い、社員間のコミュニケーションを深める」こと、社外に向けては「顧客や株主へ感謝を伝え、信頼関係を強化する」ことでした。

今年125周年を迎える1900年創業の企業は498社。数々の困難を乗り越え、125歳の誕生日を迎えた同い年の企業と共に周年を祝い、今後の事業の継続と発展を願いたいと思います。

帝国データバンク史料館 テーマ展示

創業125周年記念

創業者 後藤武夫

会期：2025/8/22まで

1900（明治33）年、後藤武夫は独力でTDBの前身である帝国興信社を立ち上げました。
信用調査業に対する世間の理解も少ない中、武夫がどのような思いをもって事業を立ち上げ、拡大させたのか、その事績を辿ります。

※開館状況・ご予約はホームページをご覧ください。

京都産業大学経営学部教授　松本 和明

国立国会図書館「近代日本人の肖像」

商業興信所外観(『商業興信所事業案内』)

信用調査事業をもたらした公益第一のビジネスリーダー

外山脩造は、新潟県出身で、渋沢栄一との機縁により、大阪・関西で金融や産業の近代化に尽瘁した。近時では閑却に至り残念である。改めてその事績を考究してみたい。外山に関わる史実は、武内義雄編輯『軽雲外山翁伝』(商業興信所、1928年)によっている(以下『軽雲』と略記)。

生い立ちと河井継之助・渋沢栄一との邂逅

外山は、1842(天保13)年11月10日に、越後国古志郡小貫村(現・長岡市栃尾地域)で傳の長男として生まれた。幼名は寅太と称した。外山家は代々里正(庄屋)を務めていた。

寅太は幼少期から漢学を学んだ。また、生涯の師となる長岡藩士の河井継之助と出会い、近しく指導を受けた。向学心が旺盛で、江戸に赴き、昌平坂学問所でも学習に励んだ。同所では、河井の仲介により、儒学者で備中松山藩士の三島中洲(後に二松学舎を創設)と知遇を得ている。

維新後、長岡藩と新政府が対峙した北越戊辰戦争では、軍事総督となった河井に従った。河井は戦中に負傷し、会津若松に敗走した。その途上の塩沢村(現・福島県只見町)で、河井は「世の中は大変面白くなつて来た、寅や、何でも是からの事は商人が早道だ、思い切つて商人になりやい」(今泉鐸次郎『河井継之助伝』博文館、1910年、390頁)と諭した。その翌日の8月16日、河井は42年の生涯を閉じた。

外山は一旦帰郷したのち、河井の言に従い上京し、1869(明治2)年1月に慶応義塾に入学して、洋学を学び始めた。長じるに及んで、開成学校や尺振八が率いる共立学舎で研鑽を深めた。漢学に加えて学問的基盤がより堅固になったのである。

外山は、1873年に大蔵省紙幣寮に仕官した。慶応義塾で同窓の小林雄七郎(長岡藩士)や丹文次郎から推薦があったとされる。

外山は押印課次いで翻訳課に配置され、小林や丹および梅浦精一(長岡出身で後に東京石川島造船所社長などを歴任)らと近代複式簿記の会読・普及に携わった。難解な体系ではあるが、外山の豊かな学識と学習の方法論をもってすれば難しくはなく、早々に会得した。その優れた見識から、省内での評判が一気に高まった。

外山は銀行課に累進し、銀行検査官として、全国の国立銀行の経営状況の検査と立地地域の経済動向の調査を担当することとなった。第四国立銀行(新潟)や第十国立銀行(甲府)などを検査・調査した。

他方で、長岡の三島億二郎(長岡藩士)や岸宇吉(唐物商)、岡山県高梁の三島中洲から国立銀行創設への支援を依頼され、懇切かつ丁寧に指導した。1878年に長岡で第六十九国立銀行、高梁で第八十六国立銀行として設立を果たした。前者は第四北越銀行、後者は中国銀行のルーツである。

外山は第一国立銀行の検査も担い、同行頭取の渋沢栄一と関係をもった。渋沢は当時の外山を次のように振り返っている(『軽雲』204頁)。

> *外山君は未だ顕要の位地に居つた人ではなかつたけれども、さう云ふことには頗る緻密な考へを持ち至つて熱心であり、且つ自分で是ならと信ずる事は必ず断行すると云ふ性質の人であつた(中略)第一国立銀行頭取としての遣方が不適当と思ふと、コンナ事をしてはいかぬと無遠慮に非難すると云ふ様なる剛直の人でありました。*

渋沢は、大蔵省出身の先輩として尊敬しつつも真摯な姿勢で検査に取り組む外山に目をかけ、両者は交誼を深めていった。

大阪・関西の金融界のリーダーとして活躍

その後、外山は、渋沢からの強い勧めを受けて、民間に転じることとなった。1879(明治12)年1月に、大阪に本店を有する第三十二国立銀行の総監役に就任したのである。

第三十二国立銀行は、寛政年間から両替商（千草屋）を営んでいた平瀬家が1878年に大阪市淡路町で開業した。同家は両替商としての経験は豊富だったものの、近代的な金融機関の経営に難渋し、事業は軌道に乗らなかった。

平瀬家第7代当主で頭取の亀之輔は、大蔵省銀行課長の岩崎小二郎に対して有為な人材の派遣を求めた。岩崎は外山に白羽の矢を立て、移籍を前提に第三十二国立銀行の調査を指示した。外山は同行の複雑な人間関係に直面し、移籍を断った。

平瀬はさらに五代友厚を介して、渋沢に外山の説得を依頼した。渋沢は「唯官吏として理論に傾き、人の仕事の指図許りでは実業は発達しない、君の如き学識がある人が実地に就て勉強すれば、銀行も段々発展して行くであらう」（『軽雲』206頁）と説いた。熟考の末、外山は渋沢の勧奨を受け入れた。

外山は着任にあたり、平瀬らとの間で10カ条にわたる契約書（約定）を取り交わし、渋沢と五代も仲介役として名を連ねた。同書第2・3条には、外山が経営全般を統括するとともに取締役会議長も担うとあり、いわば最高経営責任者を託されたのである。総監役は渋沢が第一国立銀行に参画した時と同じ職位であった。

外山は、第百三十一国立銀行（岐阜県大庭・加納）と第百四十二国立銀行（千葉県銚子）の合併や公債・有価証券売買の拡大、担保品の再評価と入れ換え、山中隣之助の東京支店支配人および取締役への起用、配当金の縮減と積立金の増加などを推進した。その結果、同行の業績は復調さらに向上し、大阪を代表する国立銀行として発展を遂げた。大蔵省は「模範的国立銀行」と高く評価している。

1882年に日本銀行が設立されると、外山は理事・大阪支店長に就任した（第三十二国立銀行の職責は継続）。外山が大阪のみならず日本の金融界で重きをなしていた証左といえる。同行では商業手形割引の促進に取り組んだものの、副総裁の富田鐵之助との対立により、1885年に辞任した。

欧米諸国歴訪で学んだ興信所システム

小閑を得た外山は、欧米諸国の最新の商工業事情を私費で調査することを企図し、1887（明治20）年9月に出発した。当初想定した対象は石油・ビール・電力産業で、石油は長岡、ビールと電力は大阪の関係者からの要請であった。1年間にわたる調査のなかで、外山がこれら以上にその必要性を強く知覚したのが信用調査機関と電気鉄道であった。また、京都の企業家の浜岡光哲（後に京都商業会議所会頭）や電気技術者の岩垂邦彦（後に日本電気を創業）との出会いは貴重なものとなった。

帰国直後から、渋沢と緊密に連携して東西で力を尽くしたのが、貯蓄銀行と信用調査機関の立ち上げである。

1890年に貯蓄銀行条例が制定された。5円未満の小口預金の取り扱いと庶民への勤倹貯蓄の啓発が目的として掲げられた。これを受けて、外山は同年に大阪貯蓄銀行を設立して副頭取に就いた。外山は同行のPRのために、約8万枚のパンフレットを作成して、大阪市内に配布した。渋沢は1892年に東京貯蓄銀行を設立して会長となっている。

『商業興信所事業案内』（商業興信所、1911年）

外山は、銀行の手形割引業務や企業・企業家間の信用取引の拡大のためには経営や資産状況を把握・公表する組織が不可欠と強く認識し、日本銀行及び同行大阪支店の協力を得て、1892年に日本初の信用調査機関として商業興信所を創設した。「興信所」とは外山の造語である。

商業興信所は、「商業上ノ取引ヲ安全ニセント欲セバ、先ヅ相手方ノ身元信用ヲ知ルヲ最モ必要トス、而シテ之ヲ知ルノ捷径ハ興信所ヘ加盟スルニ如クハナシ」、「商工業者ハ、自己ノ営業並ニ資産ノ状況ヲ詳細ニ興信所ニ知ラシメ、以テ信用ヲ高ムルコトヲ得策トス、興信所ニ向ツテ虚偽ノ報告ヲナスハ自ラ信用ヲ傷クルモノナリ」（『商業興信所事業案内』1904年）と、加盟による情報取得の有用性と適切な情報開示の重要性を強調している。

渋沢は、日本銀行や第一国立銀行などとともに、1896年に東京興信所を創設した。両所により、国内全体での企業や企業家の信用情報の受発信システムが確立され、さらに欧米諸国の興信所とのネットワークも構築されたのである。

渋沢は「興信所設立の事は全く外山君の功績として最も金融界に特筆大書すべき事と思ひます」（『軽雲』213頁）と外山の事績に最大級の賛辞をおくっている。

これらとともに、両者の協調により、諸銀行を支える業界団体や手形交換所が創設、運営された。また、経済団体の整備・強化にも注力した。渋沢は1891年に東京商業会議所初代会頭に就いた。外山は大阪商業会議所初代会頭に推されたが辞退し、特別議員としてフォローを続けた。

ビール・電気鉄道・化学を大阪・関西へ

日本人の味覚に合うビールの製造を目的に、堺の酒造家の鳥井駒吉や宅徳平および灘の酒造家の石崎喜兵衛らと1889（明治22）年に大阪麦酒を創設した。1891年に、交通の利便性が高かった現在の吹田市に吹田村醸造所を設置し、翌92年に「アサヒビール」として販売を開始した。工場建設や醸造技術を担ったのが、佐渡島出身の生田秀である。

1890年代以降、大阪・神戸間の電気鉄道の敷設が、神戸側、大阪側それぞれで計画された。早期実現のために外山が調整に乗り出し、両計画を一本化して、1899年に摂津電気鉄道を設立した（間もなく阪神電気鉄道と改称）。外山が初代社長に就き、1905年に大阪（出入橋）・神戸（三宮）間の開業を果たした。外山から信頼を受けて建設や経営の実務を統括したのが、アメリカ・パデュー大学出身の三崎省三である。

同志社ハリス理化学校教頭を務めていた化学者の下村孝太郎が構想していた石炭乾留法に外山が着目し、これを起業化すべく、1897年に大阪舎密工業を設立した（「舎密」とは化学の意）。外山が初代社長となった。ベルギーの技術を導入して、1898年に大阪市西区（現・此花区）川岸町で、日本初の副産物回収式コークス炉の建造・運転を開始した。上質コークスおよびコールタールや硫酸アンモニウムを製造していった（現在の大阪ガスのルーツ）。

外山は、長岡で育まれた質実剛健を旨とし、緻密な計数能力と高い責任感をもち、公益第一を貫いて大阪・関西で新たなビジネスを開拓した。「大阪・関西の渋沢」と称されてふさわしい企業家である。

「興信所」の変遷
企業信用調査と人事調査

企業の資料歴史にみる

「興信所」と聞くとどのようなイメージが浮かぶでしょうか。
個人の身辺調査を行う探偵を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。
現在、興信所と探偵事務所には大きな違いはなく、
どちらも個人の行動・素行調査や身辺調査を中心に行っています。
興信所は、もともと企業間の信用取引に必要な信用を興すところという意味をもち、
企業の信用調査を行う機関を表す言葉です。外山脩造（前頁「輝業家交差点」参照）が、
企業の信用調査機関を意味する英語"Mercantile Agency"や"Credit Bureau"を興信所と訳したのがはじまりです。
企業の信用調査を意味する言葉であった「興信所」が、
なぜ個人の身辺調査を行う探偵事務所と同じ意味をもつようになったのか、
その理由と経緯を追います。

アメリカの銀行の信用調査部 勝田貞次（『銀行の発展策と信用調査方法』、国会図書館デジタルコレクション）

企業信用調査と人事調査（個人の信用調査）

企業の信用調査を行う信用調査機関として始まった興信所は、次第に個人の信用調査、いわゆる人事調査も手がけるようになります。帝国興信所も時期ははっきりしませんが、早い時期から人事調査を行っています。創業時の報答規則には「本社は一般商工業者に営業上の便利を与ふる為め法人及ひ個人の資産信用性格及ひ営業上の状況を調査報告するを以て目的とす」※1とあり、企業間の信用取引のための信用調査の一環として、経営者すなわち個人の調査がありました。創業から6年後の1906（明治39）年に一度目の株式会社化をしたときの商業登記広告には、会社の目的に「商事人事に関する各人及一般信用の調査報告の請負並びに書籍雑誌を発行発売」※2とあり、企業の信用調査とは別に「人事に関する各人の調査報告」を行っていたことが確認できます。

特に個人商店や規模の小さい会社は、経営者個人の信用が会社の信用に直結したため、興信所が人事調査も担うようになっていったと考えられます。ただし、あくまで企業の信用調査がメイン事業であり、人事調査は付帯事業でした。

人事興信所の誕生

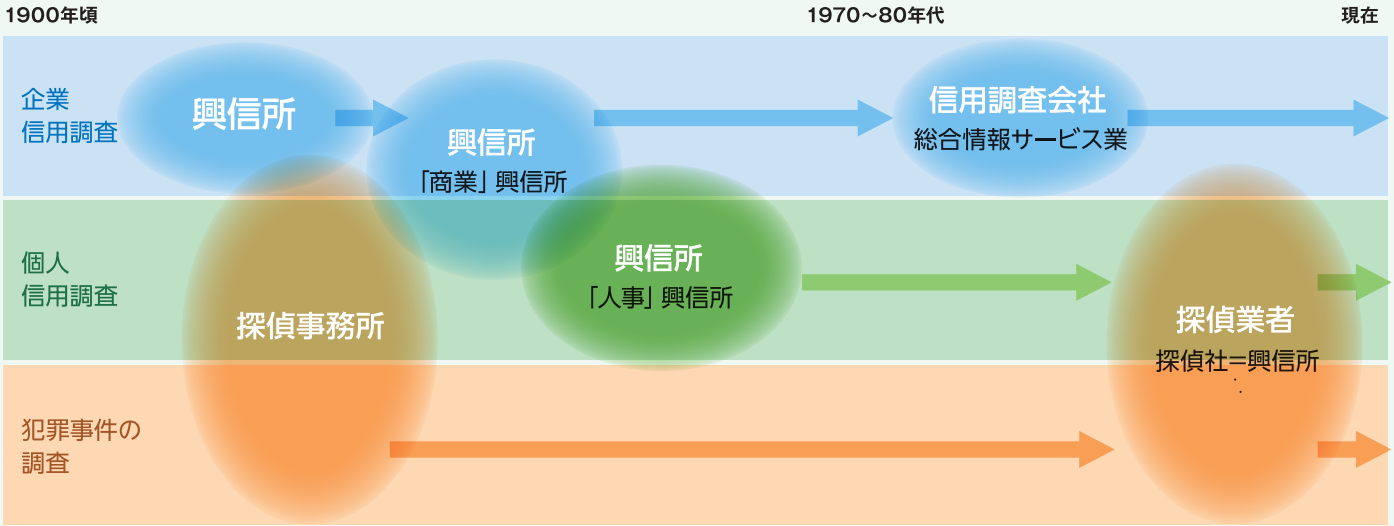
帝国興信所（創業時は帝国興信社）が創業した1900年前後には、人事調査を主業とする会社が多く誕生し、興信所を名乗ります。1902（明治35）年には、内尾直二という人物が人事興信所を創業します。人事興信所は「人事問題の調査機関として普（あまね）く社会の要求に応じ、（中略）一部の事業として人事興信録を編纂発行し広く人事調査の資料に供す」ことを目的とし、「模範を欧米先進国における私立探偵会社に採」※3っています。探偵会社をモデルとしてはいますが、実際の業務は犯罪の検挙や秘密の摘発ではなく、身元調査や結婚調査などの人事調査を主に行っていました。

企業の信用調査をメインに行う興信所と差別化を図り、人事興信所は人事調査に特化した興信所でした。興信所という言葉は企業・個人問わず広く信用調査を行う機関としての意味をもつようになり、いわゆる「商業」興信所と「人事」興信所に分化していきます。

探偵事務所と興信所

探偵は興信所とは全く別の経歴をもつ言葉です。『日本国語大辞典』※4には「①ひそかに相手の事情、またはある事件の事実関係などを調べるこ

◆興信所・探偵事務所の事業範囲の変遷



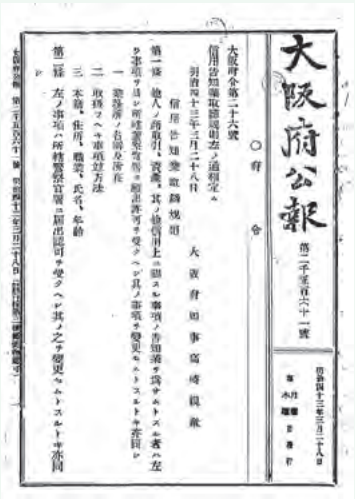
と。また、それを職業とする人。②こっそりと敵の内情をさぐりしらべる人。まわしもの。隠密。スパイ。間諜。密偵。」とあります。江戸時代には、同心、岡引きのことを「探偵方」と呼び、明治になってもしばらくは、巡査、刑事が探偵と呼ばれていました。自由民権運動が盛んな時期には、その取り締まりのために警視局が隠密探偵（秘密探偵とも）を臨時に雇い、自由民権家の監視、探索などを行わせていました。

①の意味の探偵を業務とする私立探偵は、1895（明治28）年に元刑事の岩井三郎が京橋に開業した事務所が始まりといわれます。開業当初は、身元調査や結婚調査などの人事調査を行い、本来の目的である犯罪事件を手がけるようになったのは、開業より12年も経ってからのことでした。1909年に雑誌記者がまとめた「私立探偵界」※5という記事には、「私立探偵の引受る事件。と云へば極めて範囲の広いもので、結婚媒介所ともなれば、興信所ともなる。警察署ともなる。裁判所ともなる。」とし、具体的な探偵の仕事に「拐帯失踪人の捜索／民刑訴訟に関する利益の証拠発見／盗難品の発見／財産隠匿潜伏人等の探偵／商標侵害偽造物件の探査／縁談先の財産性行等の探査／資産信用営業上の状況調査」を挙げています。探偵業には一部企業の信用調査も含まれ、「興信所に劣らざる敏腕をもっている」と評される実績があったようです。

信用告知業取締規則

探偵事務所や興信所は、1900年以降、急速にその数を増やします。しかし、興信所に関する法規制がなかったため、実態のない会社や悪質な業者も現れ、興信業界は乱立状態となっていきます。創業者の自伝『後藤武夫伝』には、事業所を展開しようとしていた1906（明治39）年頃の大阪の様子が描かれています。当時の大阪府では、警察官や新聞記者らが一旗揚げようと「雨後の筍の如く興信所を設立し、三々伍々連行して、銀行会社や商店等を襲ひ、半ば脅迫的強制的に加入を勧誘する」※6状態でした。

そのため、大阪府では1910年3月に「信用告知業取締規則」が出され、信用告知業を認可制としました。信用告知業とは信用調査業（興信業）のことです。帝国興信所は同年5月に認可を得、大阪府の興信所の整理が進む中で、大阪支所は業績を伸ばしていきました。大阪府の他にも、愛知県（1913年6月）や福岡県（13年10月）、岩手県（14年2月）などで相次いで同様の取締規則が制定されています。このように一部地域で取締規則が設けられましたが、全国的な取締規則は制定されませんでした。全国的な取締規則の必要性については各所からたびたび指摘や要請がなされています。


大阪府公報
第二千五百六十一號
大阪府令第二十六號
信用告知業取締規則
大阪府知事 高崎親章

大阪府令第二十六號
信用告知業取締規則
第一條　他人ノ商取引、資産、其ノ他信用上ニ關スル事項ノ告知業ヲ營ムトスル者ハ左ノ事項ヲ所轄警察官廳ニ届出許可ヲ受クヘシ其ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ
一　業務ヲ行フ事項及方法
二　取扱フヘキ事項及方法
三　本籍、住所、職業、氏名、年齢
第二條　左ノ事項ハ所轄警察官廳ニ届出許可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

大阪府令第二十六号「信用告知業取締規則」（大阪府公文書館所蔵）

例えば、1912（大正元）年8月に開催された全国商業会議所連合会では、「興信所事業の適当なる取締は現在吾国実業界の要求する急務中の急務」として満場一致の賛同のもとに興信所取締令の発布を内務大臣に建言しましたが、実現しませんでした。1936（昭和11）年にも弁護士の喜多辰次郎がその著書※7において、世間における信用告知業への理解が進まず、悪質な事業所が多い理由は、日本に信用告知業の法規制がないことにあると指摘し、法規制の制定と興信所協会設立の必要性を論じています。全国令が出されなかった理由について明確にはわかりませんが、興信所という言葉に必ずしもよいイメージがないことに、全国的な法規制がなかったことも大きく影響しています。

探偵業について全国的な法制度が整備されたのは、ごく最近のことです。2007年6月に制定された「探偵業の業務の適正化に関する法律」（通称「探偵業法」）では、「他人の依頼を受けて、特定人の所在又は行動についての情報であって当該依頼に係るものを収集することを目的として面接による聞込み、尾行、張込みその他これらに類する方法により実地の調査を行い、その調査の結果を当該依頼者に報告する業務」を探偵業務と規定し、探偵事務所や興信所の届出制や守秘義務の明確化、罰則規定などを盛り込んだことにより、探偵業界の安全性が強化されました。

興信所との決別

企業の信用調査をメインに行っていた帝国興信所では、1981年に人事調査業務を完全に廃止しました。社名から興信所の文字を除き、企業の信用情報及び企業情報データを提供する総合情報サービス業へと転換します。企業の信用調査のみを手がける興信所本来の姿に戻ったといえますが、興信所という言葉には人事調査会社のイメージが強く定着していたため、長年使用してきたその名称を手放すことになります。他社も前後して、総合情報サービス業や出版業への道を進み、ここにおいて、人事調査会社としての興信所と総合情報サービス業としての企業信用調査会社は完全に分離しました。

明治期に外山脩造が訳した興信所という言葉は、時を経て、その意味を変化させてきました。社名に興信所を使わなくなった現在においても、その言葉に込められた、信用を興し、経済の発展に貢献しようという思いは、信用調査業界に引き継がれています。

※1　「帝国興信社報答規則」帝国興信社『商海時報』第1巻第2号、1900年4月
※2　「商業登記公告」『中外商業新報』1906年4月10日
※3　人事興信所『人事興信録』初版（人事興信所、1903年）
※4　『日本国語大辞典　第二版』（小学館、2000年）
※5　加藤碧瑠璃『私立探偵界』『新小説』第14巻第7号、春陽堂書店、1909年7月
※6　後藤武夫『後藤武夫伝』（日本魂社、1928年）
※7　喜多辰次郎『改正弁護士法と三百行為　附・興信所探偵社研究』（二松堂書店、1936年）

【参考】
・石川文吾「興信事業ニ対スル政策」『国民経済雑誌』19巻1号、宝文館、1915年7月
・上田尚『興信所利害の研究』（警醒社書店、1922年）
・露木まさひろ『興信所　知られざる業界』（朝日新聞社、1981年）
・増田知子・佐野智也「近代日本の『人事興信録』（人事興信所）の研究（1）」『名古屋大学法政論集』No.275、東海国立大学機構 名古屋大学大学院法学研究科、2017年

Column　三島作品にみる人事調査報告書

かつて帝国興信所が行っていた人事調査の片鱗は、三島由紀夫の遺作『豊饒の海』（全4巻）に見ることができます。最終巻『天人五衰』では、本多繁邦が主人公の安永透を養子に迎える際に、大日興信所にその身元調査を依頼します。この「大日」興信所は「帝国」興信所をもじったネーミングで、作中に登場する調査報告書の構成は実際の報告書を忠実に再現しています。三島は執筆の3ヶ月前に帝国興信所の本社を訪れ、取材した内容を基にこのシーンを描いています。

本書の擱筆は1970（昭和45）年11月25日。三島が陸上自衛隊市ヶ谷駐屯地（現防衛省市ヶ谷地区）で割腹自殺した日です。奇しくも当館は防衛省市ヶ谷地区の隣に位置しています。今年は三島由紀夫生誕100年。これを機に三島作品を読み返してはいかがでしょうか。

三島由紀夫『天人五衰―豊饒の海・第四巻―』（新潮社、1971年）
※現在は新潮文庫版他

TEIKOKU DATABANK HISTORICAL MUSEUM

MUSE 2025.3 Vol.46

帝国データバンク史料館

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町14-3　TEL.03-5919-9600(直通)

ご来館の際は、1F受付にお越しください。

ご利用案内

［入 館 料］　無料
［開館時間］　10:00～17:00（事前予約制）
［休 館 日］　土・日・月曜日および祝日、年末年始
（その他展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。）

交通のご案内

［ＪＲご利用］　中央線・総武線 市ケ谷駅　徒歩8分
中央線 四ツ谷駅　四ツ谷口から徒歩9分
［地下鉄ご利用］　南北線・有楽町線 市ケ谷駅　7番出口から徒歩6分
都営新宿線 曙橋駅　A4番出口から徒歩9分
丸ノ内線・南北線 四ツ谷駅　2番出口から徒歩9分

ご来館の際には館内のご案内、ご質問など、お気軽にお申し付けください。
なお、当館ホームページで展示内容や最新ニュースなどをご紹介しています。

www.tdb-muse.jp

帝国データバンク史料館だより
《Muse Vol.46》2025年3月発行
©帝国データバンク史料館